新型コロナウイルス流行四年目の春を迎えますが、御一統様におかれましては大過なくお過ごしでしょうか。

さて、本日はお彼岸のご案内です。彼岸とは「彼の岸」つまり、仏さまの世界（浄土）を意味し、私たちが暮らしている苦しみや迷いが多い世界（此岸、しがん）から仏さまの世界に渡ることを「」と呼びます。

昼夜の時間が同じになる春と秋のお中日を中心として前後三日の合わせた七日間が「お彼岸」の期間とされ、昔から人々は先祖の墓参りをしたり、お寺で経をあげ、先祖の供養をしてきました。

寒い冬が去り、暖かくなって草も木も芽を出す季節です。本年は本堂に入場してお詣りをしていただけますのでどうぞお越しください。また、あわせてオンラインでもご参加いただけます。

彼岸会法要はお釈迦様の教えを我が身に照らし、反省と感謝を思う大事な仏事です。私たちを今日まで支えて下さったご先祖様へ感謝の供養が捧げられます。今年は三月二十一日（春分の日）十時より。卒塔婆一基三五〇〇円にて受け付けます。

《お塔婆供養について》

今から約二五〇〇年前、お釈迦様のお墓として古代インド語で「塔」を意味するストゥーパが建てられました。お釈迦様が亡くなられた時、この塔を建てて供養したのが「お塔婆」の始まりといわれています。仏教伝来に伴ってストゥーパも五重塔などいろいろ形を変化しながら、現在のお塔婆の形になったのです。施主でなくとも、志のある方には建てることをおすすめします。 ご自身のご先祖様の供養のために志す事が多いようですが、友人やお世話になった方、また有縁の方、そして無縁の方にもたむけて、善行を積まれるとよいでしょう。

御法事のご案内

故人を偲んで行われる法要は忌日やご命日を基準として営まれるものです。

近年、初七日忌は簡略化し葬儀日に合わせて執り行われることが多くなりましたが、四十九日忌はとくに盛大に行われております。

ご法事を行う場所は、お寺以外のご自宅・墓所などでも構いません。

ご供養するご先祖様のお位牌をご用意していただければ場所は問いません。

忌日、ご命日の時期になりましたらまずお寺にお電話ください。

●４９日忌　●１周忌　●３回忌　●７回忌　●この後は３と７のつく年

御法事の日取りは古来目安として御命日を基準としてその前に行うという風習があります。しかし、今日、盛夏が厳しい、ご入院のご予定がある、海外出張のご予定があるなど御命日付近に日取りをすることがむづかしいという場合も見受けられるようです。大幅に前倒しをしたり、あるいはご都合がついてから御法事を催されても大丈夫です。

コロナ禍で御法事の機会を失してしまった、という場合もあるかもしれません。例えば３回忌（通例は丸２年目）を丸３年目に行うのもよろしいでしょう。いずれにしてもご家族が後悔のないようにお過ごしをされることがよろしいかと思います。

●春のお彼岸会の次の仏事と致しましては、夏にお盆（盂蘭盆）のお経がございます。特に新盆／にいぼん・しんぼん／は御他界されてはじめてのお盆に御先祖の御霊がご自宅にお帰りになられる、と言われることからご自宅／もしくは墓前／でご供養のお経を上げる風習があります。ご家庭によって７月・８月どちらの月を選んでいただいてもかまいません。また、新盆のお経に該当していなくても、お盆のお棚経といってお盆期間にご自宅の精霊棚の前でお経をあげて、その功徳を御先祖様に施し、日ごろの御守護に対し感謝の念を捧げる風習がございます。